

V06a 「なんてん」望遠鏡のチリのアタカマ高地への移設計画 1

水野 亮、福井康雄、大西利和、水野範和、松永健一、森口義明、青山紘子、山本宏昭、伊藤雄樹、梅田裕介、中川眞規、笹子宏史、忠内可奈、前田普教、南谷哲宏、山岡健太郎(名大理)、小川英夫、米倉覚則、浅山信一郎、木村公洋(大阪府立大)

我々は1996年に南米ラスカンパナス天文台に「なんてん」望遠鏡を移設し、大小マゼラン銀河の全面観測および南天の銀河面の広域COサーベイを行ってきた。さらに高周波化をめざすために33枚のアルミパネルにより構成された新鏡面を設計・製作し、来年度よりチリ・アタカマの5000mのサイトに移設し230GHz, 345GHzのCOスペクトルおよび490GHzのCIスペクトルによる南天の観測を開始すべく準備を進めている。新鏡面を搭載した「新なんてん」望遠鏡は指向精度の向上を図るため、ドームの中に設置する予定であり、鏡面調整には光学写真測距を用いた方法で20ミクロン以下の鏡面精度を目指す。また、駆動系の見直しも行いOTF観測を可能にする。講演では、計画の概要と進捗状況について報告する。